

地域に根差したスポーツ活動の推進

—— 学校・地域が一体となった生涯スポーツの在り方 ——

市民スポーツ課 須 永 一 美

1. はじめに

現在、生涯スポーツ・生涯学習の時代となり、さまざまな文化、スポーツ・レクリエーション活動が実践され、各地域においてもいろいろな大会・事業等が盛んに展開されています。

しかし、市民のスポーツに対する関心・欲求は内容・質的にもより多様化しており、施設や地域事業においても十分な対応ができていないか問題の残るところであります。

また、週休2日や学校週5日制の導入、高齢社会の問題、少子化による学校の部活動の問題等多くの課題が存在しています。

そこで、本市では文部省の指定を受け、坂西中学校を中心とした三和、葉鹿、小俣の3地区から成る坂西地区を対象として、生涯スポーツ・生涯学習の推進として、学校と地域社会が連携したスポーツ活動の在り方ならびに地域スポーツ施設と学校施設の連携と活用の在り方について、平成5・6年の2年間の実践研究をしてまいりました。

2. 坂西地区スポーツ活動推進事業の概要

この研究において、学校・地域の持つそれぞれの力を集結した組織づくり・事業の展開が必要であり、生涯スポーツの推進は地域の活性化からと考え事業の計画を進めました。

(1) 研究テーマ

『学校・地域の持つ相互の指導力を導入し、学校体育施設の有効活用を図りながら、地域スポーツ活動の活性化と生涯学習・生涯スポーツの推進・定着を図る』

(2) 2年間の研究計画

1年次

- ・体制・組織作り
- ・先進地視察、講習会・研修会への参加
- ・各種講習会・教室の開催
- ・具体的な実践

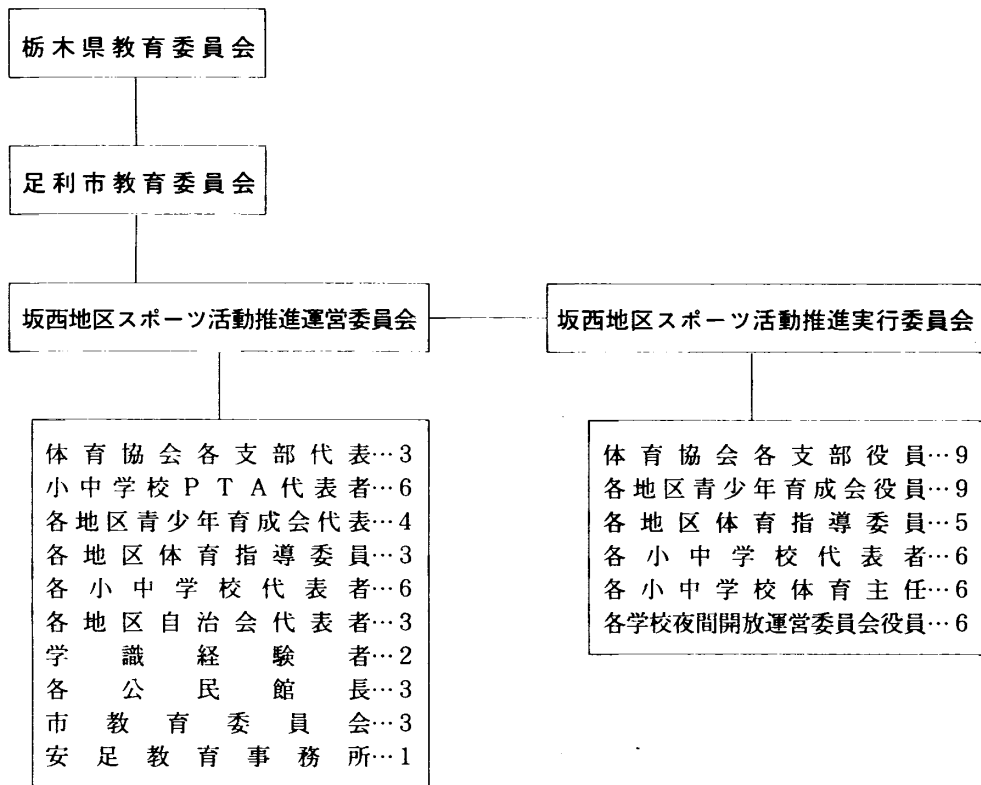
2年次

- ・運営委員会・実行委員会の開催
- ・年間活動計画の調整
- ・各種講習会の開催
- ・各種スポーツ教室の開催
- ・スポーツ交流大会の開催

(3) 具体的な実践計画

- ・基本構想検討会議の開催、各体育施設の利用状況と活動種目の調査把握
- ・運営委員会・実行委員会の設立・開催、運営要項の作成・年間計画の作成
- ・先進地視察及び国・県等の講習会。イベントへの参加
- ・講習会・教室の開催（ニュースポーツを含めた講習会・スポーツ教室の開催）
- ・交流大会の開催（子供から高齢者までだれでも参加できるようなスポーツ交流大会を開催）
- ・年間の反省と次年度事業の計画

(4) 研究組織図



3. テーマの位置付け

この研究のテーマ位置付けは、4つの方向から考えました。

(1) 学校・地域の持つ指導力を導入

学校、地域の存在する自治会・育成会等の社会団体と地区体育協会に存在する指導・企画力により、地域の実態把握、地域間の事業調整・問題点の解決等がスムーズに行え、地域の大きな推進力となると考えられます。

(2) 学校体育施設の有効活用を図る

坂西地区には、公共の大きな施設がないため、各スポーツ教室・イベント等の実施については、住民の身近な場所として学校体育施設を利用することが、生涯スポーツの推進につながりが深いと考えられます。

(3) 地域スポーツ活動の活性化

坂西地区には、各3地区においてスポーツ活動が活発に実施されているが、野球・ソフトボール・バレーボールといった競技スポーツが中心であり、年齢・性別に片寄り、地域の一部のスポーツ活動でした。そのため、いつでもだれでもできるスポーツ活動を導入することが、地域スポーツ活動の活性化につながると考えられます。

(4) 生涯学習・生涯スポーツの定着を図る

通常、個別な活動をしている学校・地域社会団体が運営委員会等の構成委員になり一同に話し合うことが学校・各団体の問題点の解決の場となり、学校週5日制における児童・生徒の活動の場の確保、余暇時間増大に伴う自己開発の場の確保等に有効に機能でき、この組織が地域のスポーツ経営を担当することができれば、この組織を中心に新しい方向の生涯スポーツの推進が展開されると考えられます。

4. 実践研究活動の経過

(1) 1年次の活動経過（平成5年度）

月 日	活 動 内 容
11月26日 1月	○第1回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会の開催 場所＝葉鹿公民館 出席者31名 ・運営委員紹介，研究事業概要説明，運営要項の作成，役員選出，事業計画について ○坂西地区各学校・地域団体スポーツ活動調査（スポーツ行事の調査）
2月 4日 2月26日	○神奈川県「学校・家庭・地域が一体となった生涯スポーツ振興発表研究会」へ参加 県内10地区が発表 参加委員11名 ○第2回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会の開催 場所＝三和公民館 出席者31名 ・研究会参加報告，学校・地域団体スポーツ活動調査報告，事業内容の確認
3月 2日 3月 28日	○生涯スポーツコンベンション（東京） 参加者2名 ○学校・地域団体スポーツ活動問題点調査 ○先進地資料収集（富山県高岡市） ○第2回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会の開催 場所＝葉鹿公民館 出席者25名 ・地域の実態調査報告，6年度事業方針

まず第1回運営委員会を開催し，この事業の趣旨・計画の説明を行ったが，各地区のそれぞれの団体より「我々の団体は各種スポーツ事業等を盛んに実施している。これ以上事業を増やす必要があるのか。」という意見が上がり，趣旨の理解はされませんでした。そのため各学校・地域団体スポーツ活動・問題点調査をすることになりました。また，先進地の視察をし状況等収集，学校・地域団体スポーツ活動の実態調査結果として，「競技中心で種目・対象に片寄りがあり，活動の場や指導者が足りない」等の実態の把握，生涯スポーツの再確認をしながら，第2回・第3回の運営委員会を開催することによって，この研究事業の趣旨やこの運営委員会の在り方が確認され，坂西地区スポーツ活動推進事業は，現在各学校・地区団体のスポーツ活動を調整しながら進め，子供から高齢者までが，いつでも，どこでも，だれでもが参加できるスポーツ活動の推進をする方針が打ち出され，運営委員会要項が決定されました。（下記参照）

〈足利市坂西地区スポーツ活動推進運営委員会要綱〉

（名 称）

第1条 この会は，坂西地区スポーツ活動推進運営委員会（以下「推進運営委員会」という。

（目 的）

第2条 推進運営委員会は，地域スポーツ活動の推進を図るため，学校と地域が一体となって活動する生涯スポーツ活動の振興を支援し，その運営に関する諸事項について協議して円滑な運営を行うものとする。

（事 業）

第3条 推進運営委員会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| (1) 推進運営委員会の開催 | (2) 各種スポーツ教室・講習会の開催 |
| (3) 小中学校スポーツ活動の推進 | (4) 地域スポーツ活動指導者講習会開催 |
| (5) 学校・地域におけるスポーツ交流事業の推進 | |

(構成)

第4条 推進運営委員会は、次の者をもって構成する。

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 体育協会各支部代表者 | (2) 小中学校PTA代表者 |
| (3) 各地区青少年育成会代表者 | (4) 各地区体育指導委員代表者 |
| (5) 各小中学校代表者 | (6) 各地区自治会代表者 |
| (7) 学識経験者 | (8) 行政関係職員 |

(役員)

第5条 推進運営委員会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名、 (2) 副会長 若干名

(役員選出)

第6条 会長及び副会長は、推進運営委員会の互選によって選出する。

(役員職務)

第7条 会長は、推進運営委員会を代表して会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し会長に事故ある時は、その職務を代理しその職務を行う。

(役員任期)

第8条 推進運営委員会役員任期は、2年とする。

- 2 補欠役員任期は、前任者の在任期間とする。

(会議)

第9条 推進運営委員会の会議は、会長が招集し協議する。

- 2 推進運営委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務局)

第10条 推進運営委員会の事務局を小俣公民館内に置く。

- 2 事務局設置に関し必要ある事項は会長が別に定める。

(委任)

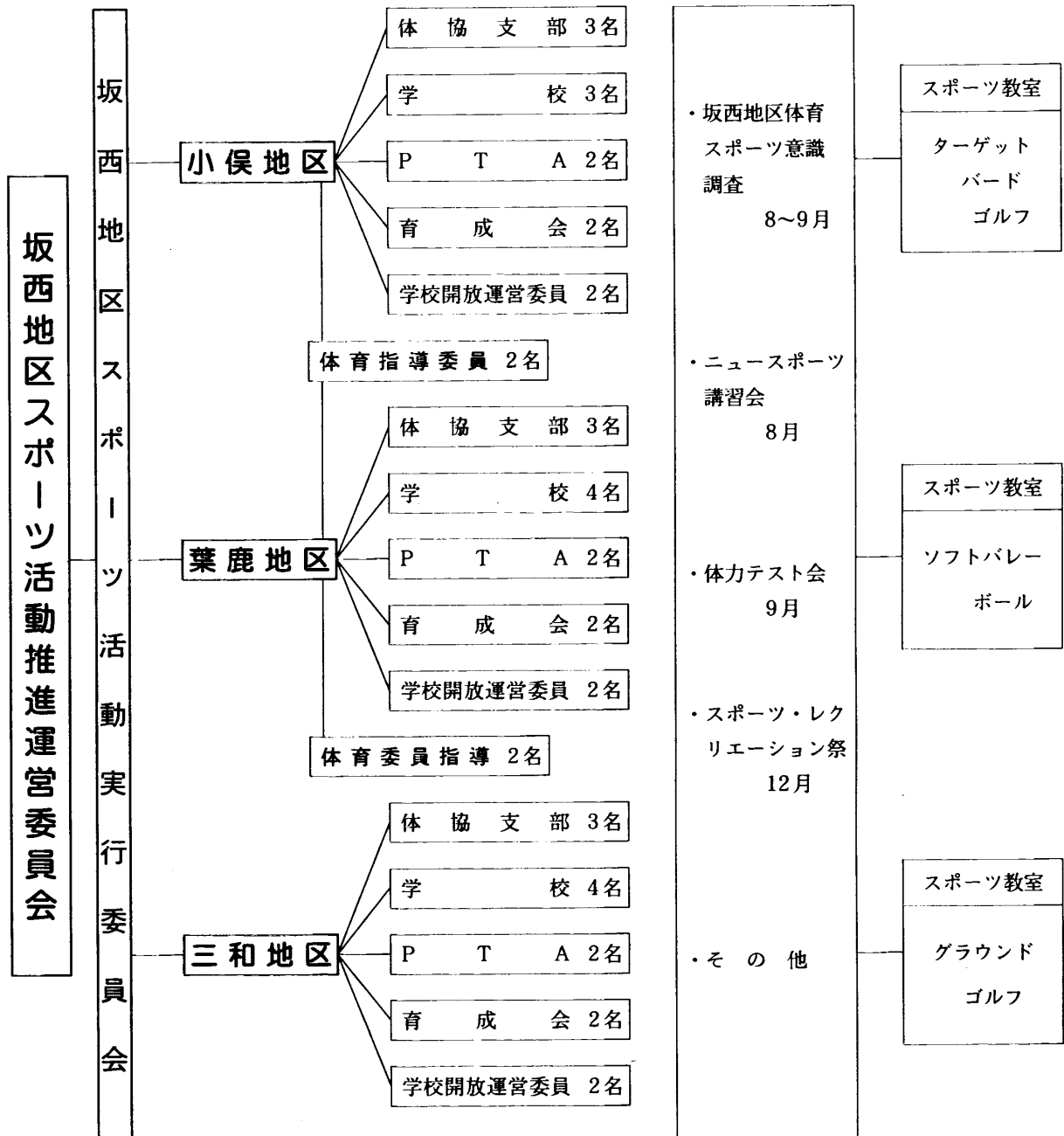
第11条 この要綱に定めるもののほか、推進運営委員会の運営に関して必要な事項は会長及び副会長の協議により決定する。

(2) 2年次の活動経過 (平成6年度)

2年次には運営委員会と実施部隊としての実行委員会が確立され、足利市坂西地区スポーツ活動推進実施組織図が作られました。(次頁参照)

そして、この組織のもとに事業の展開が成されました。

〈足利市坂西地区スポーツ活動推進実施組織図〉



月 日	活 動 内 容
7月20日	<p>(2年次)</p> <p>○第1回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会 ・会場= 葉鹿公民館 出席者 21名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業推進の趣旨・概要の確認、5年度事業等報告 ・実行委員会の設立に伴い運営委員会との活動組織図の検討を行う。 ・6年度事業計画(運営委員会・実行委員会の開催, 住民実態調査, 視察, 教室, 講習会, イベント等の検討を行う。)

8月12日	○第1回坂西地区スポーツ活動推進実行委員会 ・会場=三和公民館 出席者34名 ・事業推進の趣旨・概要の確認、経過報告 ・6年度事業の進め方の検討を行う。全大会・分科会(3地区)
8月28日	○坂西地区ニュースポーツ1日講習会 会場=葉鹿小学校 委員参加者 7名 ・デスクゴルフ、ターゲットバードゴルフ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーの4種目を実施(市外・市内講師計10名)
8月	○坂西地区体育・スポーツの意識調査 ・配布数 3,026枚、回収 2,170枚、回収率 71.7%
9月20日	○第2回坂西地区スポーツ活動推進実行委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者24名 ・体力テスト会、各地区スポーツ教室の企画・運営等について
10月14日	○第3回坂西地区スポーツ活動推進実行委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者20名 ・体力テスト会、各地区スポーツ教室の用具確認・役員割当てについて
10月19日	○坂西地区体力テスト会・参加者 56名(大人26名 子供30名) ・会場=坂西中学校 委員参18名 ・種目(握力、垂直跳、立位体前屈、反復横跳、ジグザグドリブル、急歩6種目、他肺活量、体組成分析・コンピューター診断)
11月8日 15・22日	○坂西地区ターゲットバードゴルフ教室(小俣地区担当) (各火曜日) ・会場= 小俣小学校 委員参加者 延12名、講師数 延8名 ・参加者 延63名
11月10日 17・24日	○坂西地区グランドゴルフ教室 (三和地区担当) (各木曜日) ・会場= 三和小学校 委員参加者 延10名、講師数 延10名 ・参加者 延45名
11月11・18日	○坂西地区ソフトバレーボール教室 (葉鹿地区担当) (各金曜日)
12月2日	・会場= 葉鹿小学校 委員参加者 延12名、講師数 延12名 ・参加者 延123名
11月9日	○第2回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者23名
11月21日	○第4回坂西地区スポーツ活動推進実行委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者33名 ・第1回坂西地区スポーツレクリエーション祭について(種目、競技方法、PR、募集、参加賞等について) ・坂西地区スキー教室の開催について
12月14日	○第5回坂西地区スポーツ活動推進実行委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者21名 ・第1回坂西地区スポーツレクリエーション祭(役割分担、競技方法、ルール、必要物品、表彰等確認について)
12月7~9日	○平成7年度生涯スポーツ実技指導者講習会 ・会場 東京代々木 参加者 4名
12月18日	○第1回坂西地区スポーツ・レクリエーション祭 ・会場=坂西中学校 委員参加者 38名 (参加者153名) ・種目=ターゲットバードゴルフ40名、グランドゴルフ48名、ソフトバレーボール12組・65名 ・ニュースポーツ体験コーナー(アトラック・デスクゴルフ・ユニホック)
1月21日	○坂西地区スキー教室 ・会場=中里スキー場 参加者62名 委員参加者 延 3名、講師数 延10名
2月1日	○第3回坂西地区スポーツ活動推進運営委員会 ・会場=葉鹿公民館 出席者24名 ・坂西地区スポーツ活動推進事業まとめ、7年度推進運営等について
3月2日	○生涯スポーツコンベンション ・会場=東京 参加者1名 ・「21世紀の生涯スポーツビジョン」についてのシンポジウム、研究協議
3月25日	○坂西地区スポーツ活動推進運営委員会・実行委員会・会場=葉鹿東葉館 出席者43名 ・7年度坂西地区スポーツ活動推進について ・運営委員会の今後の在り方 ・実行委員会の今後の在り方 ・構成委員について ・今後の事業推進について

2年次として、前頁の事業は運営委員会・実行委員会を中心に展開されました。

運営委員会は、定期的を開催することとなり、実行委員会は、各事業の実施に伴い開催されました。また、坂西スポーツ活動推進事業の実施要項・PR用チラシはピンクの用紙を使用し、各委員、学校、住民に一目で分かるように統一されました。

講習会、教室等の事業には、この事業の方針をふまえ、競技スポーツだけでなく、幼児から高齢者までがだれでも参加できるニュースポーツを中心に開催し、地域に潜在している新たな各層の発掘をすることに努めました。

ニュースポーツ講習会においては、ターゲットバードゴルフ、グラウンドゴルフ、ディスクゴルフ、ソフトバレーの4種目を取り入れ実施し、参加層が小中学生・高齢者・ファミリーと多彩であり、世代的な交流がなされ、和気あいあいと実施することができ、参加者、役員にも好評でした



(ディスクゴルフ)

スポーツ教室については、実行委員会で種目別に各地区担当でニュースポーツを開催することを決定しました。指導者には、体育指導委員が当たり、対象は坂西地区全住民として開催しました。しかし、会場が担当地区であったことや、3つの開催期間が近く、時期的に寒かったため参加しなかったようです。

また、スキー教室では、地元スキークラブの協力を得て成功裡に開催できました。



(グラウンドゴルフ)



(ターゲットバードゴルフ)

体力テスト会は、「自分たちの体力を知ろう」を合い言葉とし、健康・体力より関心を高めるために開催しました。参加者は56名で垂直跳び・急歩等6種目で行い、小中学生から壮年、高齢者と幅広い参加が得られました。測定器具は、坂西中学校の器具を借用し、測定に当たっては、各小中学校の体育の先生の指導により、各委員が分担して測定に当たりました。



(立位体前屈【柔軟性】)

坂西地区スポーツレクリエーション大会は、この事業で実施した講習会・教室の総決算として実施されたものでグラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、ソフトバレーの3種目を中心に実施され、幼児から高齢者・ファミリーとの触れ合いの場とすることができました。



(ソフトバレー)

(各賞受賞者)

この研究のメイン事業のひとつとして、坂西地区体育・スポーツ意識調査を実施しました。

これは、各地区住民がスポーツに対してどれだけの関心があり、地域がどんなニーズを持っているかを知ることにより、今後の坂西地区に根づいたスポーツ活動推進の指針となると考えられるため実施しました。

調査対象は小学生以上の住民とし、各小学校の6年生の家族(1,177枚)、中学3年生の家族(1,149枚)及び20・50・60歳代で700枚で合計3,026枚を配布し、2,170枚の71.7%の回収率で、人口の11.2%という結果でした。

配布・回収は、小中学校については対象児童生徒に配布回収し、20・50・60歳代は無作為抽出の郵送形で実施しましたが、郵送関係の回収率が40%と予想より低い値でした。

この調査の中で、

「この1年間に仕事や授業を除き何かスポーツ・運動で体を動かしましたか」(グラフ1)では、3つの各地区とも75%の人が何らかの運動を経験しています。種目別には、ジョギング、水泳、スキー・スケート、ハイキングの順でした。

また、「定期的に運動・スポーツを行っているか」(グラフ2)の設問では、男子38.6%女子24.8%と女子が低く、全体的にも高い数値ではありませんでした。

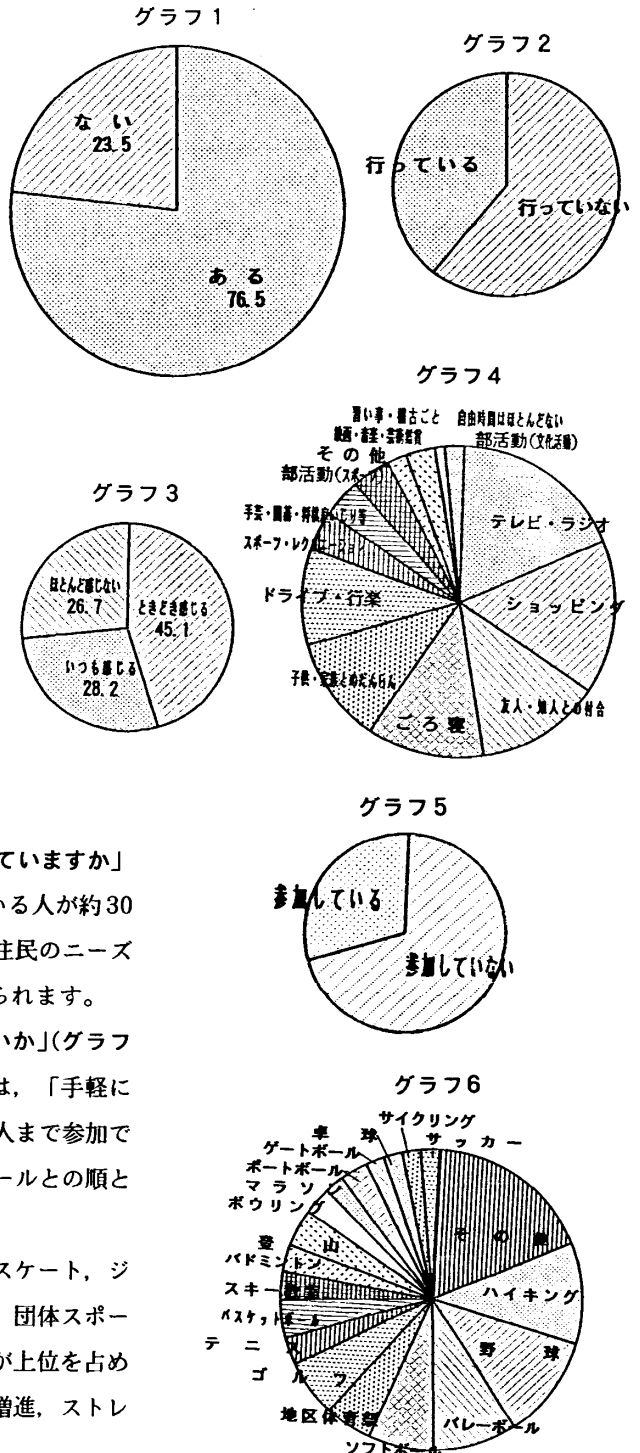
そのためか、「運動不足と感じている」(グラフ3)と答えた人は、70%以上であり、単発的な事業参加や試合を中心とした活動が多いと思われます。

「余暇時間の過ごし方」(グラフ4)について「平日」と「休日」の設問では、両日ともテレビ・ラジオで過すが第1位で知人・友人との付き合い、習い事・稽古ごととなり、スポーツレクリエーションをするという人は、平日で2.0%、休日で1.8%という低い状況でした。

地域の事業への関心について「地区行事へ参加していますか」(グラフ5)の設問には、3つの地区とも参加している人が約30%であり、70%の人は参加をしていないと答え、住民のニーズと地域事業の持ち方等に違いが生じていると考えられます。

そして、「坂西地区としてどんな行事に参加したいか」(グラフ6)の設問では、その他が第1位であり、その内容は、「手軽に参加し楽しめる、勝敗にこだわらない、子供から大人まで参加できる」となっており、ハイキング、野球、バレーボールとの順となっています。

また、「今後やりたいスポーツ」では、スキー・スケート、ジョギング、ハイキング、ゴルフ、テニスの順になり、団体スポーツから個人でできるスポーツレクリエーション活動が上位を占めています。また、住民の目的意識も健康体力の維持増進、ストレ



スの解消等が上位となり、競技のため練習等がへり、スポーツ活動に対するニーズや志向形態が変わって来ているようです。

5. 研究成果と課題

坂西地区では、平成5年度・6年度と「学校・地域の持つ相互の指導力を導入し、学校体育施設の有効活用を図りながら、地域スポーツの活性化と生涯学習・生涯スポーツの推進・定着を図る」をテーマとして研究に取り組み、成果と課題としてテーマにそって考えました。

(1) 組織づくりについて

初年度は、運営委員会の確立・育成を中心として視察・講習会への参加を行い委員の意識統一を行い、6年度には実行委員会を設立し、事業の展開が成され、それぞれの事業成果を得ることができました。また、より重要であるのは運営委員会・実行委員会の在り方であると考えられます。

①…坂西地区の運営委員会は、坂西地区の1つの中学校・5つの小学校と3つの地区の体育協会支部・自治会・育成会・PTA・体育指導員等から選出してあり、これらの団体は、通常地区の各種事業を展開している団体であります。また、学校・社会教育団体として、地域のスポーツ活動はもとよりあらゆる活動の根源となっています。そのため、発足当初は、各団体自体の事業の主張が多く、他の団体との協調にはそれほど興味は示さない現状でしたが、委員会を開催することに各委員の在り方が再認識されてきました。

また、推進事業の運営面の他にも、学校・各地域団体からいろいろな問題点として、行事の開催会場調整の問題、施設を借りる場合の事務の簡素化、他の事業との種目・期日の問題、少年スポーツ行事の重なりによる活動の加熱化問題、高齢者のスポーツ活動、学校週5日制の問題等がでてきました。これらの問題を解決するためにも、この組織の意義が認識されたことは大きな成果でした。

②…実行委員会を中心に行われた事業は、住民のニーズに応えられる内容であり（全てではないが）地域の人々の運営でスポーツを提供することができました。

③…スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション祭の種目は、学校・地域の組織運営であるため住民の声を反映でき、指導者としてその地区の体育指導員や地区クラブの指導者があたることができました。しかし、今後ますます住民のスポーツに対するニーズが多様化する中で指導者の育成は大きな課題であると考えます。

④…各種の情報提供では、その組織が行う事業は全て同一色（ピンク）のチラシを使い、自治会の回覧による全戸配布や児童・生徒の協力で行うことができました。また、自治会加入の傷害保険を利用することで全住民が対象とされ、当日参加者にも安心して活動ができるような配慮がなされました。

⑤…児童・生徒が直接運営委員会や実行委員会に加わるのがなかったが、情報提供への協力や事業への参加が得られました。しかし、今後において児童会や生徒会等への取り組みが必要です。

学校週5日制を考慮した場合、児童生徒の意見が反映できるようにする必要があります。特に、学校との連携では児童会・生徒会との関係や青少年のリーダー育成という面からも、組織編成上工夫が必要であると考えられます。

(2) 学校体育施設の活用

①…学校体育施設の夜間開放によるスポーツ教室の開催から、ターゲットバードゴルフのクラブが誕生し、定期的活動が学校を拠点として実施されました。今後の推進により、少年を含めた地域クラブの誕生が期

待される場所ですが、地域スポーツ活動の拠点となる学校体育施設の利用促進と調整を十分行うことが必要であると考えます。

- ②…この事業で、学校体育施設を利用した事業を展開し、各小中学校の先生が施設の貸し管理業務のみでなく、指導面の協力も得ることができたことは、地域コミュニティとしても大変に意義のあるものでした。

学社連携の中で、教員の活用においては、学校所在地に在住する人と他地区から通勤する人で、勤務態様や意識において違いが生じると考えられます。今後、より積極的な学社連携を図る上で、指導者としてどのような対応ができるのか整備していくことが大切です。

(3) 地域スポーツの活性化と生涯スポーツの推進・定着

- ①…坂西地区は、市の中心部からの遠隔の地にあり、市が実施している多様なスポーツ事業に思うように参加できない不便さがありました。この地域組織がニュースポーツを中心に教室等の事業を実施したため、スポーツを楽しむ新たな住民が発掘できたこと、また地域に根づいた事業となったことは大変意義深いことでした。
- ②…本地区のように3つの支部がそれぞれの特色を持ったスポーツ推進を図ることで、施設・指導者・プログラム等が有効に活用され、ほんの1部分にすぎませんが、住民が選択してスポーツを実施することができたことは、今後の生涯スポーツの推進として重要なポイントとなることと考えられます。

6. ま と め

このように、学校と地域各団体が一つの目的に対して、それぞれの意見をぶつけあい、理解を深め組織が結成され、この各委員の手で坂西地区住民のスポーツ活動が考えられ、事業が展開されたことは、まだまだ課題は残されるが大きな成果であったと思います。また、平成7年度からもこの組織は自主的な活動をし、地域スポーツ活動の推進を実施していくことになり、今後の活動に期待されるところであります。

これからの生涯スポーツの推進は、市全体として進めることはもちろんのことですが、やはり地域としての推進を考えていくことが重要であると思います。そのためにも、この坂西地区のような自発的・自主的運営のできる組織づくりが必要であり、その組織の構成員の選定が大切であると考えます。

また、施設面においては、地域の公共体育施設の整備が十分でないため、地域スポーツ活動の拠点はやはり学校施設となり、指導者についても、学校の専門的指導力と地域の総合的指導力を相互に導入することができればより活動範囲に広がりが見られ、学校・地域ともスポーツ活動の活性化が考えられます。

今後の生涯スポーツ・生涯学習は、このような組織が地域のスポーツ・文化経営体として十分に機能を発揮するためには、学校を含めた地域住民の融和が生涯学習へと導くと考えます。

評

本研究は、平成5・6年度の2年間、文部省より地域スポーツ指定を受け、坂西地区を中心にして学校・地域が一体となった生涯スポーツの在り方について研究してきたものです。特にこのスポーツ活動の基盤を担ったのは「坂西地区スポーツ活動推進運営委員会」を核にした中で、「小俣地区」「葉鹿地区」「三和地区」のそれぞれの体育協会支部、小学校・中学校、そのPTA及び育成会、さらに学校開放運営委員、また体育指導委員等の方々の精力的な活動が原動力になっているものです。その活動実践においては、「坂西地区体育スポーツ意識調査」「ニュースポーツ講習会」「体力テスト会」「スポーツレクリエーション祭」等多岐にわたり、特に「ターゲットバードゴルフ」、「ソフトバレーボール」、「グラウンドゴルフ」の各種スポーツ教室は紙面から盛況の様子がうかがえるところです。

生涯スポーツを目指した社会づくりの気運が高まりつつある今日、足利市では「ニュー足利創造プラン」(第5次足利市振興計画)の基本計画に、学び合いで築く文化と人づくりを据え、市民スポーツとレクリエーションの中のスポーツ活動組織の充実において次の4点を今後の課題として掲げています。

- (1) スポーツクラブ活動をより活発にするために、スポーツクラブ連合の充実・強化や高齢社会にあわせ、シルバースポーツクラブの育成・促進を図る必要があること。
- (2) 家族で取り組めるスポーツ活動などをとおし、地域スポーツ活動推進事業の取り組みを展開すること。
- (3) スポーツ活動やスポーツ教室などの事業の充実を図り、「市民一人1スポーツ」を実現するために、足利市体育・文化振興会との連携を強化すること。
- (4) 増大する市民のスポーツ欲求に対応し、競技力向上のためにも足利市体育協会の強化支援が必要であること。

このような課題に対しての本研究実践は「地域スポーツ活動推進事業の推進」として、具体的な活動を通して、家族で取り組めるスポーツ活動の推進を図り他地区への活動の拡大を図るものと位置付けています。このような観点から、市民の声を基盤にして市民の一人一人の願いに則した実践を目指すものと考えられます。

一方において、文部大臣の諮問機関である生涯学習審議会(伊東正己会長)は、4月24日、身近にある学校などの公共施設や地域の人材を生涯学習にどう生かすかを検討したものを文部大臣に答申しています。特にこの中で、仕事に追われがちな父親をPTA活動や地域活動に参加させるために、企業や行政を含めた社会全体が環境づくりを進めることを要請しているところです。時代の潮流がまさに、生涯スポーツに追い風を送っている状況を強く感じます。本実践が、今後、市民の願いに応え、ここちよい汗を通して多くの人が明るく元気な社会生活に積極的に参加する方向へ導くものと期待いたします。